

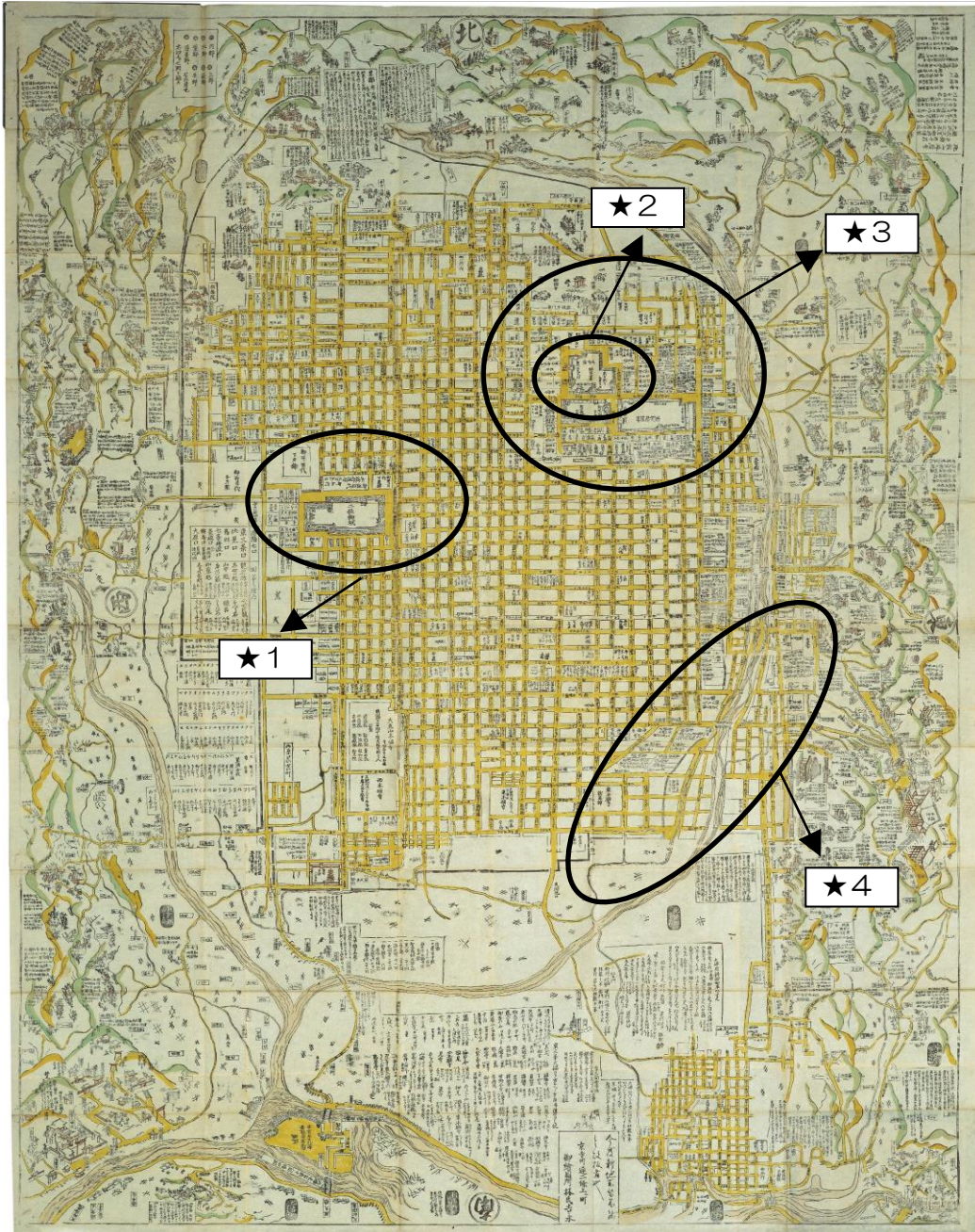
授業で使える当館所蔵地図

No. 82 『新選増補京大絵図』

作成年：江戸時代

サイズ：160×127cm

作者：林氏吉永（御絵図所）（絵）



【解説】

図の余白に公武の知行、寺社縁起、名所旧跡の解説を盛り込み、地誌名所記の図示化・視覚化を施した観光図として用いられていた。「京寺町通二条上ル町 御絵図所 林氏吉永」と有ることから、大判手彩色京都図の刊行で知られる林氏吉永によって出版されたものである。

★1 二条城

二条城は江戸時代に徳川家康によって建てられ、将軍が上洛（京都に行く）する際に使われた。江戸幕府は、公家に対して、禁中並公家諸法度を出して行動を制限したり、京都所司代を置いて朝廷を監視したりしていたため、公家の政治的活動はほとんどできなかったが、文化的な役割は大きかった。

幕末に15代将軍徳川慶喜によって大政奉還が行われた場所としても有名である。

★2 禁裏

1869（明治2）年に東京^{てんと}奠都がなされるまで、京都御所は天皇の御在所^{ごさいしょ}であり、この場所で数々の儀式が執り行われてきた。古地図上では「禁裏」と記される。みだりに内裏内へ入ることを禁じていたことから、禁裏と呼ばれた。禁中、禁裏御所とも呼ばれる。

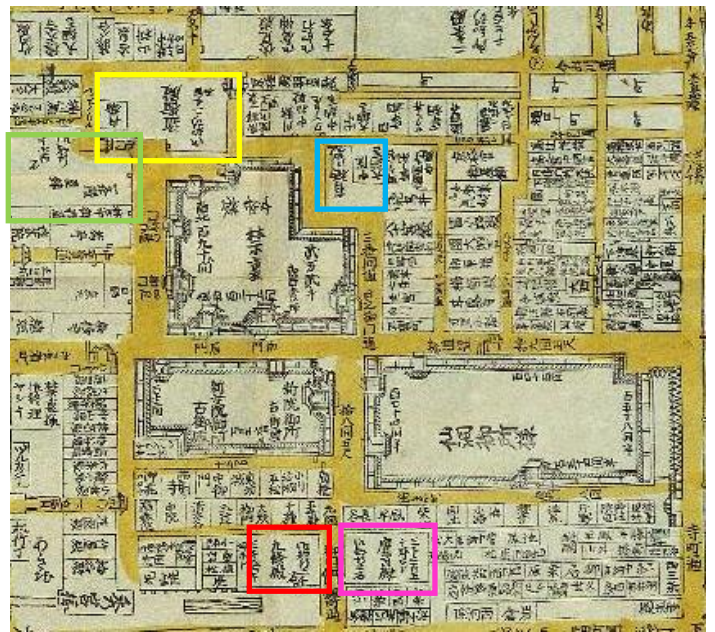
★3 禁裏周辺の公家屋敷

地図中には、**このえ**、**近衛家**、**一条家**、**九条家**、**ありすがわ**、**有栖川家**、**たかつか**、**鷹司家**などの邸宅が並んでいる。

京都御苑の周りには公家町が形成されていたことが読み取れる。

この地に公家の邸宅を集めたのは、豊臣秀吉である。秀吉は、自らの権威を保証する存在として朝廷を敬い、禁裏の改修を行うとともに、公家を貴族として遇することで覚えをよくし、その上に立つ天皇の権威を借りるという思惑があったと見られている。

江戸時代に入っても公家町の形成は進み、幕末には138家が存在していたという。



★4 高瀬川

江戸時代初期（1611年）に角倉了以^{すみのくらりょうい}らによって京都の中心部と伏見を結ぶために物流用に開削された運河。名称はこの水運で用いる、底が平らで小さい「高瀬舟」にちなんでいる。水深約30cmの浅い川で、二条大橋の西にある水取り口から鴨川の水を引き込んで南下し、宇治川に合流する約10kmの運河であり、大阪との荷物の運搬に広く利用された。

【用語・人物について】

・角倉了以（1554－1614）

京都の豪商。国内河川の開発整備に従事し、1611（慶長16）年に、二条より鴨川の水を引き、伏見に達する高瀬川を開削し、京都伏見間の水運を開通させた。

【利用の例】

○歴史的分野「江戸時代 都市の繁栄と交通路の整備」

教科書では三都の繁栄を中心に取り上げられており、「将軍のおひざもと」と呼ばれ旗本・御家人のほか、大名の江戸屋敷に諸藩の武士が多く住んでいた江戸、全国の商業の中心で「天下の台所」として諸藩が蔵屋敷を置いた大阪について学習する。

補足の資料として、江戸時代に描かれた京都の古地図を読み取ることで、政治の中心は東日本に移るが、御所があったことや、交通の発達によって旅行者が増えたことなどにより著しく衰退することはなかったことが理解できる。また、京都の御所は室町時代の戦乱で荒れてしまったが、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康により復旧され、公家町が周囲にできるまでに回復したことも理解することができる。

○地理的分野「近畿地方」

現在の京都市周辺の地図と古地図を比較し、現在も歴史的な建造物や街並みが残されていることを感じることができる。

【岐阜県図書館所蔵関連地図】

・「禁闕内外全図」…1720（享保5）年年新刻、1837（天保8）年補刻。禁裏を中心に公家町の様子や、公家の紋と禄高が描かれている。

・「文久改正内裏御絵図」…1863（文久3）年に平野屋茂兵衛によって描かれ、小川彦九郎によって刷られた多色刷り版画。禁裏を中心に公家町の様子や、公家の紋と禄高が描かれている。